

平成28年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-5号)

農林総合研究センター
平成28年6月23日調査

気象経過

1. 6月第4半旬の平均気温は、平年に比べ金沢、輪島ともかなり高くなった(金沢:+2.3℃、輪島:+3.7℃)。日照時間は、金沢で平年並、輪島では平年に比べかなり多く(金沢:97%、輪島:160%)、降水量は金沢、輪島ともに平年に比べかなり少なくなった(金沢:43%、輪島:42%)。
2. 6月23日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報(6/25~7/24)では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%、降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

生育概況等

【生育状況】

1. 出穂期(早生品種)

県内の生育観測田における早生品種(ゆめみづほ、能登ひかり)で幼穂が確認されており(1~4mm程度)、ゆめみづほの出穂は加賀地域で7月14~17日頃、能登地域(羽咋~中能登)では7月20日頃と、いずれも近年に比べ4日程度早く、概ね前年並の出穂と予想される。

また、能登地域(奥能登~珠洲)の能登ひかりの出穂は、7月21日頃と前年に比べ1~2日程度早まると予想される。

2. 葉齢

コシヒカリは加賀地域で+0.3葉(-0.4~+0.6葉)、能登地域で+0.4葉(+0.4~+0.8葉)、県平均では+0.3葉となっている。

コシヒカリの葉齢展開からみた生育の遅速は、平年に比べて3日程度早く、概ね前年並と見込まれる。

3. 草丈

コシヒカリは平年比112%(加賀地域110%、能登地域115%)と長く、ゆめみづほは近年比113%(加賀地域112%、能登地域118%)と長い。

但し、葉齢の展開状況から勘案すると、いずれの品種も草丈は平年並と考えられる。
(次項グラフ参照)

4. m²当たり茎数

いずれの品種も最高分けつ期に達している圃場が見られ、茎数の増加は緩やかとなってきており、コシヒカリは、平年比101%(加賀地域101%、能登地域102%)と平年および前年並、ゆめみづほは、近年比102%(加賀地域102%、能登地域102%)と近年及び前年並となっている。

6月23日

m²当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

品種	調査地	茎数	平年比	前年比	株当たり
コシヒカリ	県平均	535本	101%	101%	28.6本/株
	加賀	543本	101%	102%	29.7本/株
	能登	522本	102%	101%	26.8本/株
ゆめみづほ	県平均	585本	102%	101%	32.6本/株
	加賀	603本	102%	101%	33.8本/株
	能登	534本	102%	99%	29.2本/株

【病害虫の発生状況】

1. 本田におけるいもち病は、6月23日に初発生が確認された。なお、BLASTAMによる感染好適条件は、6月第4半旬に10地点で出現しており、平年に比べ感染好適出現か所数はかなり多くなっている。

- 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多い。
- 紋枯病の発生が、6月22日に確認された。(平年値6月28日)

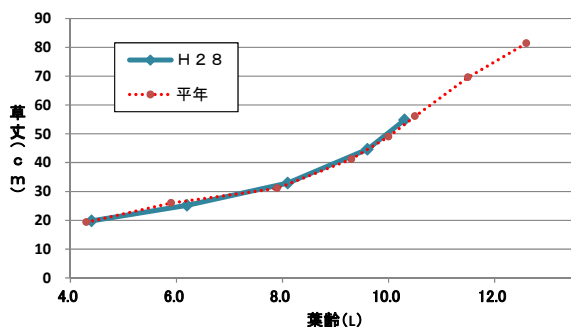
当面の対策

- 早生は幼穂形成期に入っているため、中干しを終了し、以後、間断通水による飽水管理とし、根の機能低下防止に努める。
- 早生の1回目の穂肥は、適期の幼穂長(ゆめみづほ：1～2mm出穂23日前、能登ひかり：2～3mm出穂20日前)を確認し、遅れずに施用する。ただし、茎数が多く、葉色が濃いほ場(葉色板4.0を超えるほ場)では、1回目の穂肥を減量して施用し、2回目は出穂7～10日前に基準量を施用する。
- コシヒカリは、稲体の健全化、弱勢分げつの発生抑制と有効茎歩合の向上を図るため中干しを継続し、特に、分施体系のほ場では、中干しをしっかりと行い穂肥を施用できる稲体へ誘導する。
- 高地力田や生育過剰なほ場では、やや強めの中干しを行い、適正籾数への誘導を図る。
- いもち病の箱施薬が行われていないほ場、いもち病の常発地および葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
- 紋枯病の常発地、前年発生ほ場及びゆめみづほ作付ほ場では、発生に注意し、防除を徹底する。粉剤での防除は、出穂前10～14日が適期である。
- 斑点米カメムシ類の生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで畦畔や農道の除草を徹底する。除草は、集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

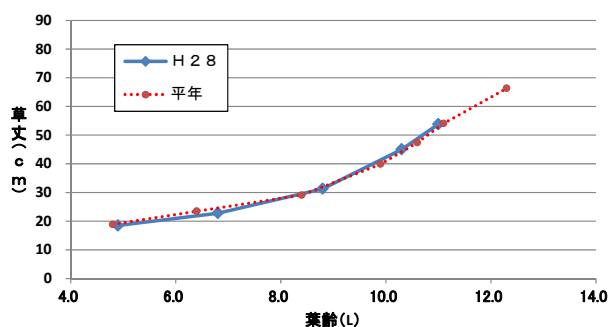
<参考：葉齢からみた草丈・調査日からみた茎数の増加>

- 葉齢を基に草丈の伸長を平年と比較すると、コシヒカリ、ゆめみづほともに平年並となっている。
- 調査日をもとにコシヒカリの茎数を平年及び前年と比較すると、加賀地域、能登地域ともに前回調査時に比べ茎数の増加は緩慢となっており、いずれの地域も平年および前年並みとなっている。

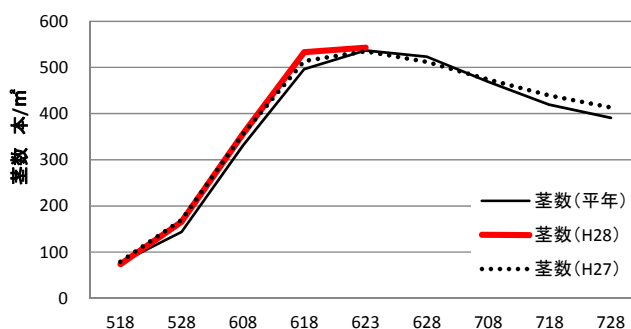
葉齢と草丈(コシヒカリ)



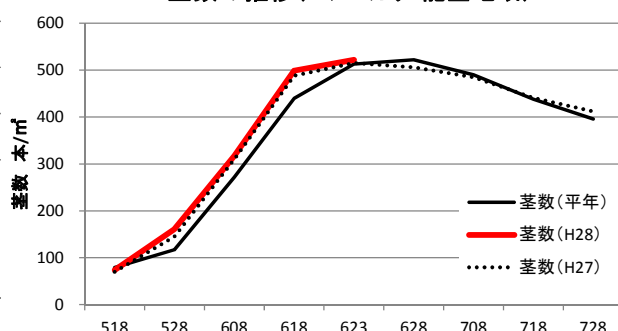
葉齢と草丈(ゆめみづほ)



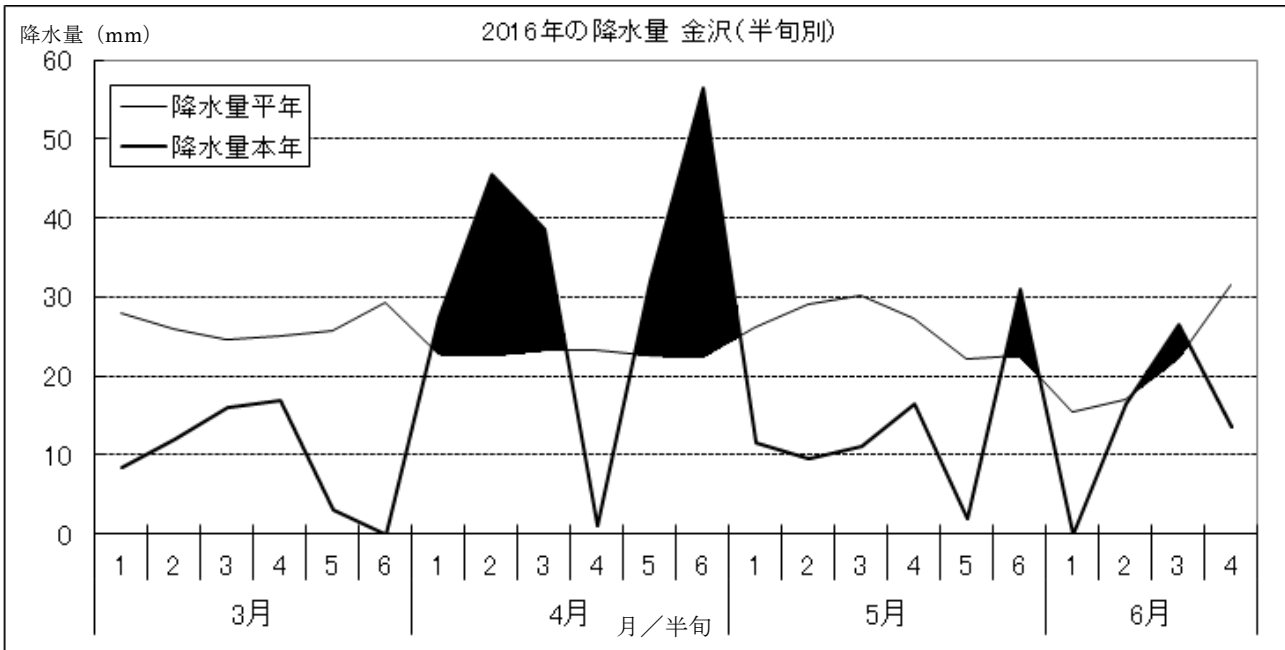
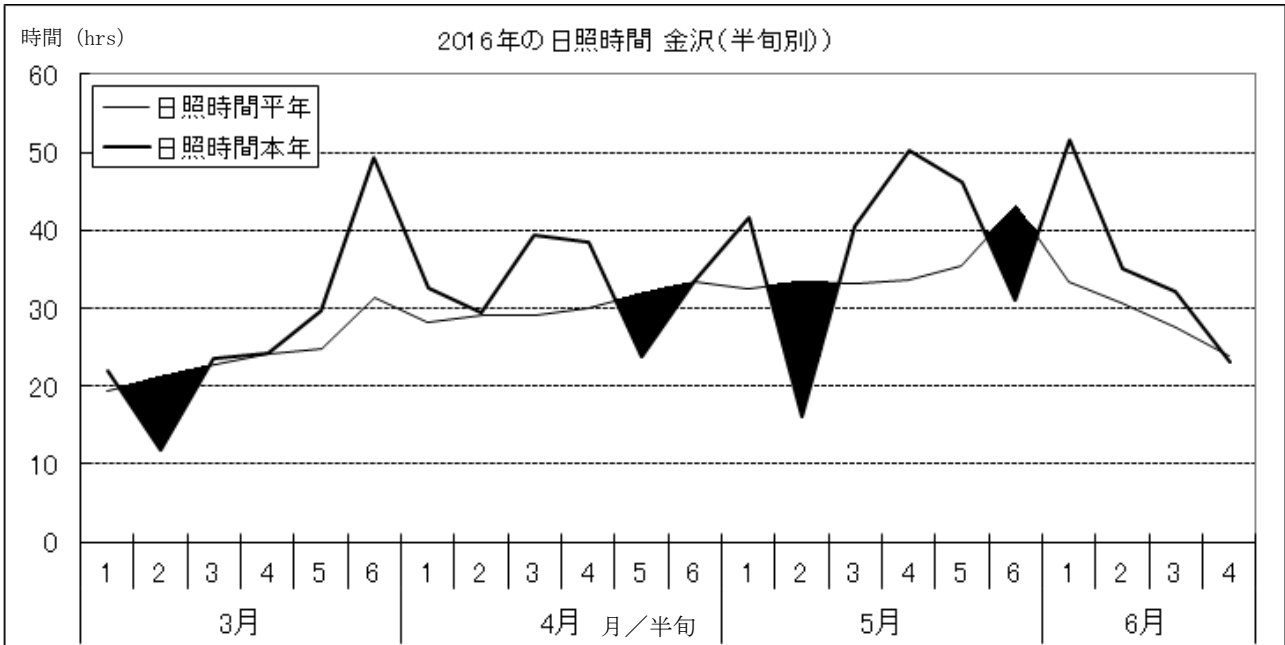
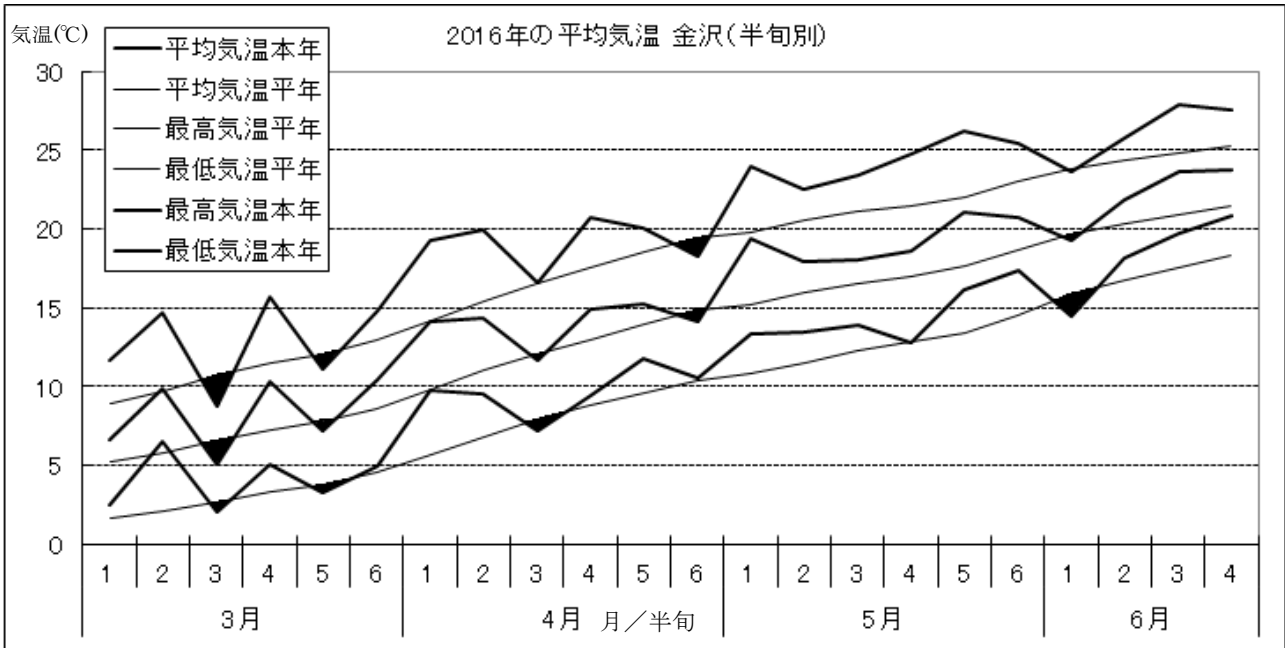
茎数の推移(コシヒカリ:加賀地域)



茎数の推移(コシヒカリ:能登地域)



気象経過イメージ (金沢气象台)

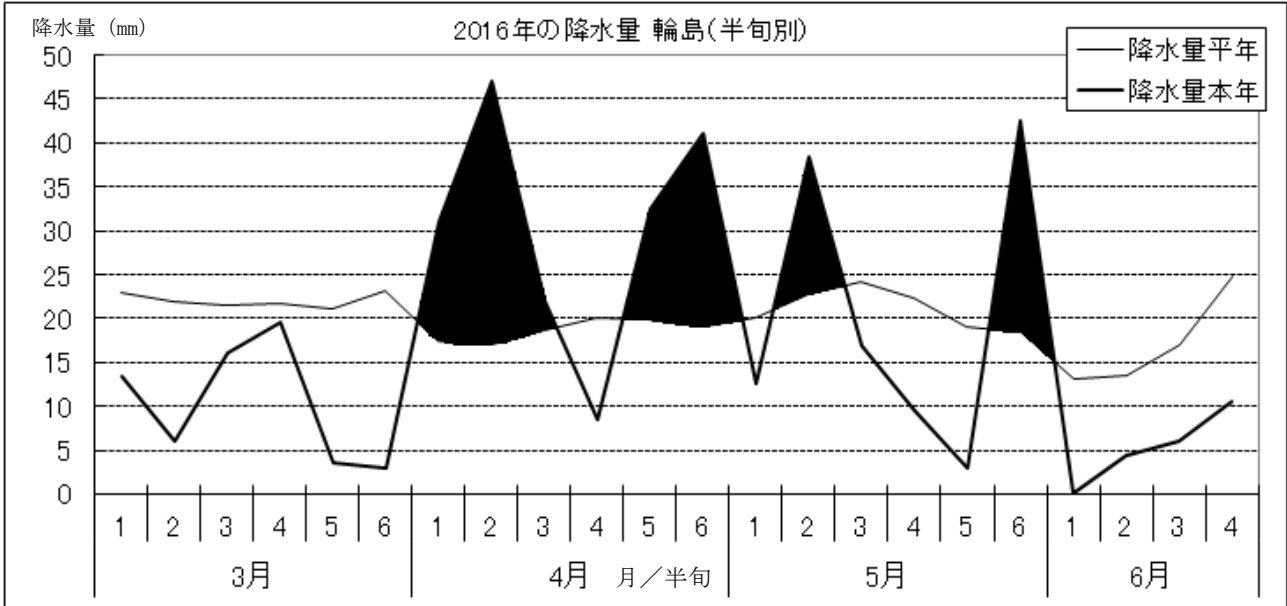
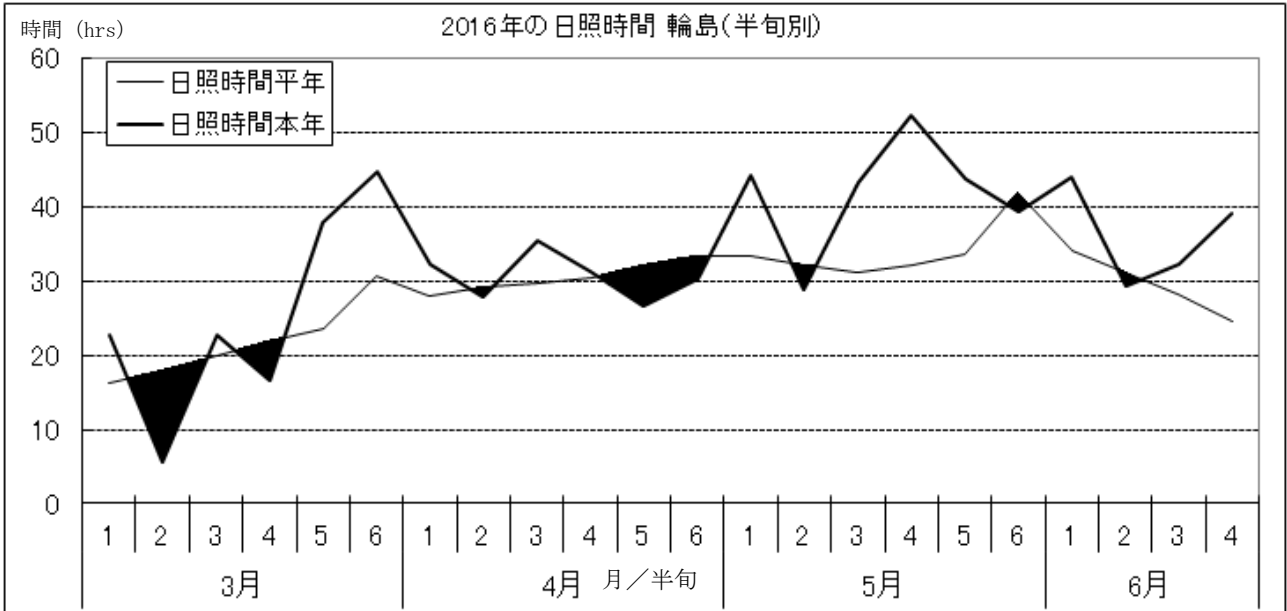
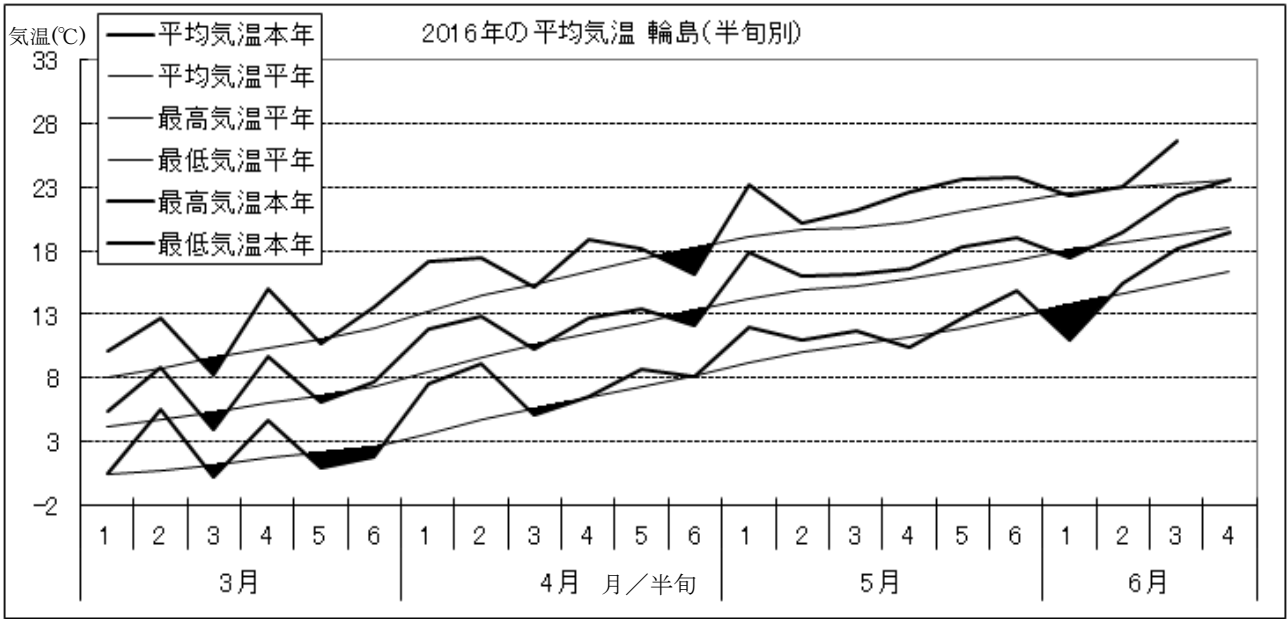


※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い